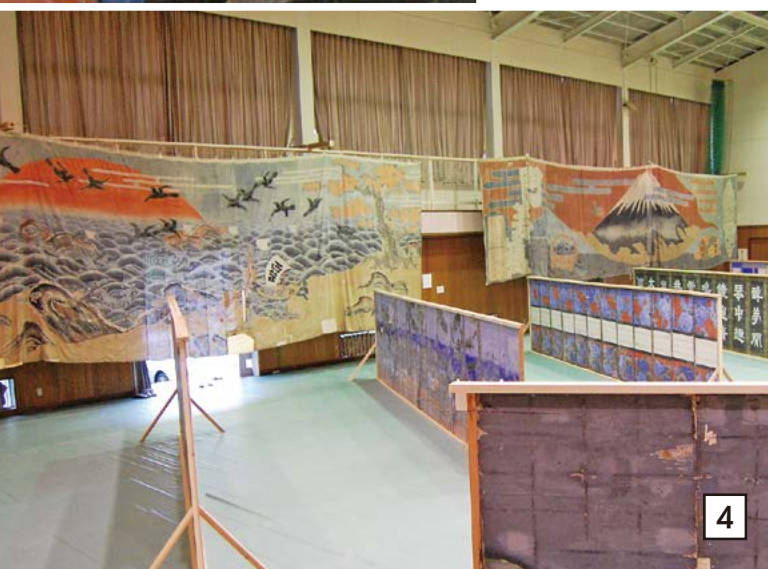




特集

西塩子の回り舞台の



①表紙の提灯が夜空に輝く光景も一興ですが、日中は、舞台の精巧さや、古くから残る道具の数々をよく見ることができます。公演には毎回約 3,000 人が訪れ、タイミングによっては立ち見客が出るほど観客が集まります。

②③舞台は 2 段になっており、2 段目に床とフスマが回転し、舞台裏から役者が登場する「回り舞台」があります。実は、舞台の下に 4 人の男性が待機し、合図が出ると、力を合わせて軸を押し回しています。

④「第 23 回国民文化祭いばらき 2008」では、回り舞台が娯楽であった江戸時代から残るフスマや大幕の数々を展示しました。当時から残る大道具・小道具のほとんどは常陸大宮市歴史民俗資料館に保存されていますが、大幕は、現代の定期公演でも使われています。

⑤象徴的な大きな屋根は、市内の竹を公演の度に切り出して組み立てます。舞台と水平方向に組まれる竹は、2 本の竹を合わせて長さを出し、垂直方向に組まれる竹は、1 本だけで長さ・太さが十分なものを選びます。

⑥公演の約 2 週間前から会場近くや国道 293 号沿いにのぼりが並びます。のぼりの支柱にも市内の竹を使っています。

⑦⑧演目の中でも観客の数が最大になり、多くのおひねりが飛ぶ大宮北小学校 3・4 年生の「こども歌舞伎」。夏休み明けから練習を重ね、大人にも引けを取らない演技を見せます。

⑨西塩子の回り舞台保存会のメンバーが自分たちでも芝居をしたいと立ち上げた「西若座」の公演。毎公演で大トリを務めています。舞台組立ての合間をぬって、県外の師に指導を仰ぎ、本番には公演の最後にふさわしい演技で会場を沸かせます。

①③⑨：平成 28 年撮影。②⑥⑦⑧：令和元年撮影。④：平成 20 年撮影。⑤：令和 7 年撮影

現存する日本最古の組立式農村歌舞伎舞台である「西塩子の回り舞台」。200 年もの間、塩田地区に受け継がれてきた歴史ある文化財で、茨城県指定有形民俗文化財にもなっています。

「組立式」の名のとおり、公演の度に舞台を一から組み立てるのが特徴の一つです。江戸時代後期から、稲刈りが終わった後、1 か月ほどかけて、舞台に使う木材や竹の用意から始まり、麦をまく前の畑を借りて舞台を組み立てて、歌舞伎などの娯楽を楽

しました。その後、跡形もなく解体され、また次の公演時に組み立てて…を繰り返すのが「組立式舞台」です。

そして「農村歌舞伎」の名は、村に来る人形浄瑠璃や歌舞伎の興行を見るだけではならず、農民たちが、自ら舞台に立って芝居をすることから来ています。今も、日本の中で「農村歌舞伎」の伝統はありますが、そのほとんどが常設舞台のため、西塩子の回り舞台は全国的にも珍しいものと言えます。

舞台は昭和 20 年ごろまで組み立てられていましたが、その後、本格的な組立ては行われず、舞台の材料や道具は倉に納められたままになっていました。そんな中、平成 3 年度に大宮町歴史民俗資料館が調査を実施し、平成 9 年の復活に至りました。平成 13 年には「第 1 回定期公演」と題し、以降、ほぼ 3 年ごとに舞台を組み立て、公演を行っています。

10 月 25 日、前回の令和元年の公演から 6 年ぶりに、現存する最古の組立式舞台が復活します。



▲ボランティアとして参加する大工に指示を出すのは西塩子の回り舞台保存会の大貫孝夫会長。舞台には設計図がなく、保存会の人々が持つ、地域に伝わる記憶と、平成9年の復活時に県外の組立式舞台の現場から学んだ知識が重要になります。(写真提供：西塩子の回り舞台第8回定期公演運営委員会)

西塩子の 回り舞台を 守る人々 × 支える人々

西塩子の回り舞台保存会

西塩子の回り舞台第8回定期公演運営委員会



▲西塩子の回り舞台組立てボランティア活動初日である8月23日の様子。この日は100人を超えるボランティアが集まり、辰ノ口地区・門井地区の竹の切り出しや運搬、舞台の柱設置を行いました。

「令和元年が最後になっていた定期公演。『このままでは舞台が眠ってしまう』と地域で話し合い、今回の復活を決めました」と第8回定期公演開催のきっかけを話すのは、西塩子の回り舞台保存会の大貫孝夫会長です。

昭和20年以降、舞台の組立てが行われなくなった後も、地域には西塩子の回り舞台の話が受け継がれていたといいます。「舞台の道具は年1回、虫干しをしていたので、存在は知っていました。昔は、公演の際、上京した親族にはがきを送り、それで帰省してきた親族を各家庭が盛大に迎えるとともに、舞台を楽しんでいたのです。また、組立ては行わずとも、フスマ

などの道具は、地区のカラオケ大会などで使うこともありましたが、大貫会長は話します。

地域で、「語り継がれるもの」であった西塩子の回り舞台が、再現に至ったきっかけは、平成3年の大宮町歴史民俗資料館の調査。「当時、資料館の職員が調査をして、竹ひごで模型も作って。さらに、試しに小学校の体育館で組み立ててみるかと話が進んでいきました。それがマスコミの目に留まったことで、存在が広く知られ、さまざまな支援を受けての復活につながりました」と大貫会長はいます。

そして今回の第8回定期公演では、運営委員会と力を合わせ、本

番に向けて着々と準備を進めています。準備の中で、特に大きな手助けとなったのは運営委員会の「人や資金を集める力」だと大貫会長。「運営委員会の人脈のおかげで、多くのボランティアが集まりました。特に、「竹を使った建築に携わりたい」と市内外の大工の方々から協力をいただいたのが、心強かったです」と話します。また、高齢化が進む保存会では、なかなか手が回らなかったインターネットを活用しての情報発信や資金集めの力も大きく、「全国へと風呂敷が大きく広がっていったのを感じています」と大貫会長は地域の伝統が外へと広がることへのうれしさを見せていました。

「初めて西塩子の回り舞台を見たときに、こんな素晴らしい美しい舞台を地域の皆さんが作って、そこで歌舞伎を上演されることに感動しました」と話すのは、西塩子の回り舞台第8回定期公演運営委員会の西野由希子委員長です。茨城大学人文社会科学部で教授を務める西野委員長は、常陸大宮市と茨城大学で結んだ「地域連携協定」がきっかけで、舞台の存在を知り、以降は、学生とともにさまざまな協力を行ってきました。一方で、西野委員長と同じく舞台に魅せられ、個々で舞台への協力を行ってきた人たちがいました。「これまで定期公演に向け、それぞれで保存会を支援していたのが今回

はまとまって、『運営委員会』として発足しました」と西野委員長はいます。

運営委員会の活動の軸にあるのは「西塩子の回り舞台保存会のサポート」。舞台の中心である保存会の意向を最優先に考え、活動を行っているといいます。「会議開催やボランティアの募集など、事務局的部分を運営委員会では担っています。保存会の方々と話すと、『こういうこともやれるといいね』と話しながらも、手が足りず実現できないということも少なくありません。もしこちらができることがあればなるべくやります」と西野委員長はいます。

そして、時には、運営委員会の

アイデアで新たな風を吹き込みます。前回公演からクラウドファンディング(インターネット上で不特定多数の人から資金を募る仕組み)を始め、今回の公演に対しては、170万円を超える支援が集まりました。

インタビューの結びに西野委員長は、「今回、運営委員会としてまとまり、委員それぞれが持っているネットワークによって、東京の若者や大工などの専門職の方ともつながりができました。そして、運営委員会と名前がついたことで、これまで以上にボランティアや西塩子の回り舞台に興味を持ってくれる人の輪が広がったのがうれしいです」と話してくれました。



◀「辰ノ口さくら祭り」で辰ノ口区長に相談し、舞台の屋根に使用が決まった辰ノ口の竹を運ぶ様子。「真竹でこんなに太いのは初めて」と大貫会長。

▼舞台の組立てで課題の一つとなっていた高所作業。幅広くボランティアが集まったことで「縄で竹を結び前に針金で固定する」など工夫も生まれました。



▶今回、運営委員会として特に力を入れているのが、各作業の撮影です。大きな屋根の骨組を縄で結ぶ様子など、次回につなげるために、詳細に記録しているそう。

▼大貫保存会会長(右)と話す西野委員長(中央)。ボランティアにできることを保存会に確認したり、外部と保存会をつなげることも運営委員会の役割です。



伝統に挑む



大宮北小学校3・4年生 こども歌舞伎

観客動員数が最大になり、おひねりの雨が降る、西塩子の回り舞台のプログラムで一番の人気を誇るこども歌舞伎。大宮北小学校の4年生がメインで役を張り、3年生が支えています。今年は、4年生7人、3年生10人が伝統芸能に挑戦します。こども歌舞伎は、毎年11月に行われる北小学校の行事「北小祭」でも3・4年生が披露しており、恒例行事となっています。

子どもたちが披露する演目は、四季の遊びの面白さを表現する「常磐津 子宝三番叟」と「白浪五人男」の稲瀬川勢揃いの場面で、捕手（現代でいう警察官）を前に自分の来歴を七五調の名ぜりふで語

る盗賊団の姿を演じます。

第8回定期公演に向け、練習が始まったのは、西塩子の回り舞台本番まで2か月を切った9月3日のこと。練習開始前、子どもたちは正座で姿勢を正して講師を待ちます。講師が来ると「よろしくお願いします」と全員がきれいにそろった礼をして練習が始まります。その姿から子どもたちの緊張と真剣さが伝わります。

舞台に立つ際の基本である発声練習を行ったあと、担当する演目ごとに分かれて稽古を行います。「常磐津 子宝三番叟」の練習では浴衣を身にまとい、歩き方など所々作を学ぶところからスタート。謡の練習では、三味線の音とせりふ

の細かいタイミングを合わせます。「白浪五人男」の練習では、傘や十手の立ち回り、歌舞伎ならではの「見得」を切る演技を身に付けていきます。

普段、触れる機会の少ない、日本の伝統芸能。どの役でも覚えることはたくさんあります。始まったばかりの稽古ではまだまだ手探りの様子の子もたちですが、休み時間には、体育館を駆け回る元気な姿や、台本を見直す真剣な姿を見せます。そんな子どもたちの元気さや真剣さは、稽古を重ねることで、演技や口上に現れ、本番では、同じ経験をした先輩たちにも負けない素晴らしい舞台を見せてくれることでしょう。



西塩子の回り舞台 第8回定期公演

開催概要

詳細は西塩子の回り舞台保存会ホームページをご覧ください。



日時

10月25日（土）
予備日 26日（日）

場所

塩田地区センター
（常陸大宮市北塩子 2163）

入場料

500円
※高校生以下無料

会場へのアクセス

①会場隣接有料駐車場

駐車料金：500円
駐車台数：350台
※天候により使用できない場合があります。

②大宮運動公園駐車場

駐車料金：無料
駐車台数：450台
※会場までシャトルバスを運行します。

駐車場には限りがあります。
お車の乗り合わせ、水郡線の利用にご協力ください。

③JR 常陸大宮駅着 シャトルバス

プログラム

オープニング 鷺子祭囃子保存会 下郷組

10:00～10:20 開会式
10:30～11:00 口上・常磐津「子宝三番叟」
（大宮北小学校児童）
11:20～12:00 こども歌舞伎
「白浪五人男 稲瀬川勢揃いの場」
（大宮北小学校児童）

幕間 SHIRANAMI'25 国際交流協会

12:00～12:40 昼休み

12:40～13:20 歌舞伎舞踊「蛇姫様」
（烏山山あげ保存会芸能部会）

幕間 お楽しみ抽選会

13:50～14:20 舞踊劇「鏡岩」
（楽の会）

幕間 和太鼓（あゆみ保育園）

14:50～15:30 常磐津「将門」
（常磐津伝承教室児童）

15:50～16:20 新企画 創作舞台&ミュージック
（安達勇人・いばらき若旦那）

幕間 お楽しみ抽選会

16:50～18:00 「太功記 十段目 尼ヶ崎閑居の場」
（西若座）

江戸時代後期からそのまま残る文化財に注目

農村文化の水準の高さがうかがえる大幕

県指定有形民俗文化財となっている西塩子の回り舞台。実は、文化財として指定を受けているのは、舞台の床などの材料や大幕、フスマなど一部にすぎません。なかでも、大幕は定期公演当日にも見ることができます。高さ3.3m、幅11.5mにもなる大幕の左下には、文政3年（1820）につくられたという旨の印が。演目と演目の間は、200年以上前に農村の人々が作り上げた大幕に注目です。

